

第2回 福島県における復興祈念公園のあり方 (基本構想への県提言) 検討有識者会議

【復興祈念公園に係る候補地周辺の状況等】

資料目次

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況	
自然条件	01～12
歴史文化条件	13～18
ネットワーク資源	19
教育的ツアー等の資源	20
2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況	
復興計画・震災遺構	21
福島県内の他の復興祈念施設	22
アーカイブ拠点計画の概要	23
避難居住地の概要と帰還意向(双葉・浪江)	24～25
福島県内の市町村別将来推計人口の状況	26
コミュニティー維持活動の取り組み(双葉・浪江)	27～28
NPO法人の活動状況	29
産業構成((双葉・浪江)	30～31

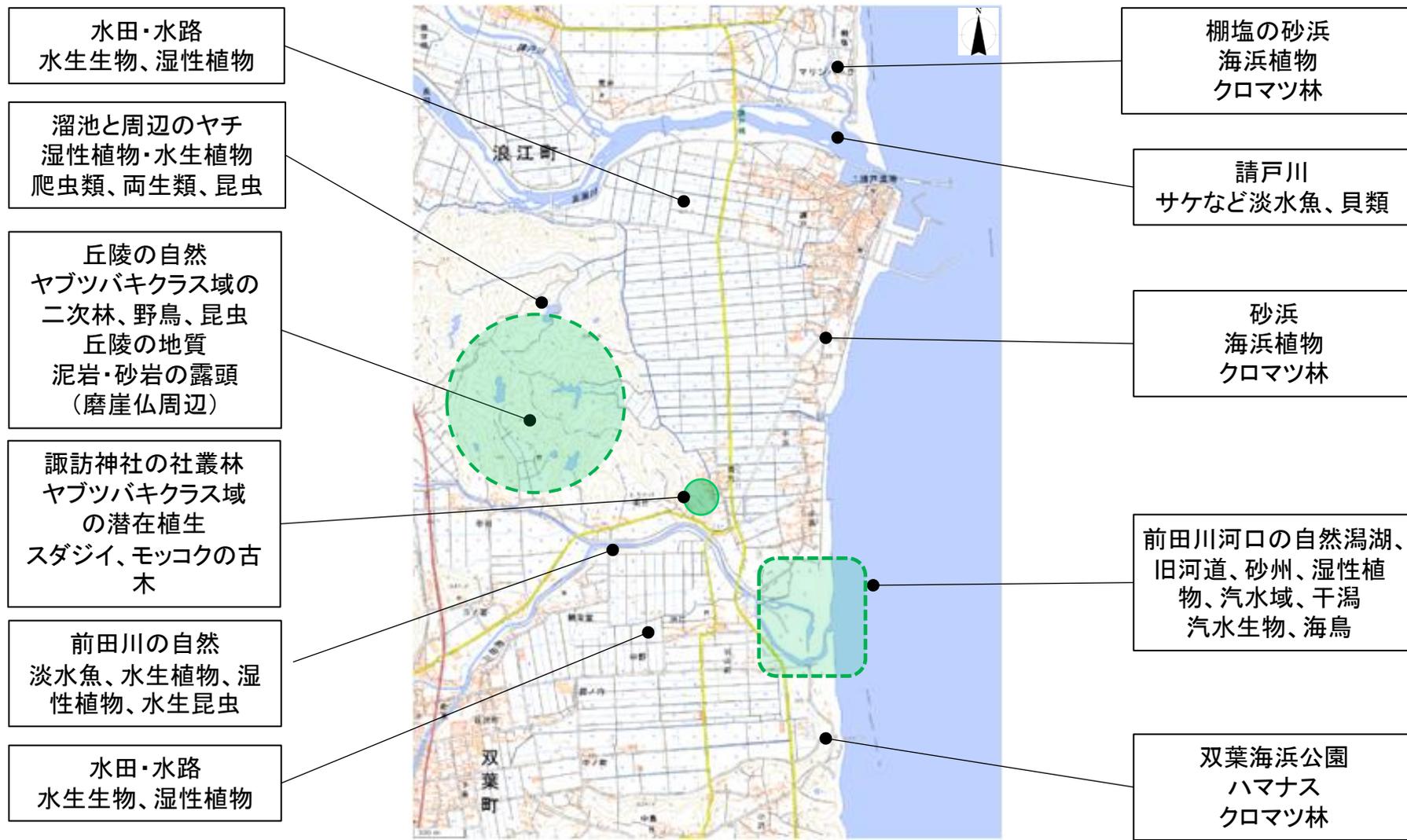
平成27年12月7日

福島県土木部まちづくり推進課

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 自然条件

●公園候補地周辺の自然条件の整理

・阿武隈山系の自然と海浜部の温暖な気候が会う公園候補地周辺は、丘陵地・平地・河口・砂州など多様な地形を有し、諏訪神社周辺の丘陵部には、シイの木など照葉樹林の良好な潜在自然植生が残っている。また前田川河口部の自然潟湖や砂州などには、汽水域や干潟の動植物が生息している豊かな環境であり、公園の配置を考える上で有用な自然条件と考えられるのではないか。



1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 自然条件(気象・気候)

●気象

●気温: 太平洋岸の他の地域と同様、海の影響で夏涼しく冬暖かい傾向がある。年平均気温は13℃前後、年間の月平均の温度差は20℃、最高気温の年平均が17.6～7℃、年平均湿度は75パーセント、夏季には85パーセントを超える。

●降雨: 浜通りの年間降雨量は1500ミリ以下で、日本では寡降水地域(雨の少ない地域)に属する。通常の降雨量は少ないが、短時間に多量の降水量があるという特色がある。

●風: 冬季(11月～3月)は西風が主体で、他の季節は東と南が主体となる。4・5月、9・10月の季節の変わり目は多様になる。冬季が夏季よりも風速は大きい。

●風向き、風速は場所により異なる。例として、海岸部ではクロマツの樹形が海風の影響で変形している。
(出典: 双葉町史、浪江町史別巻I)

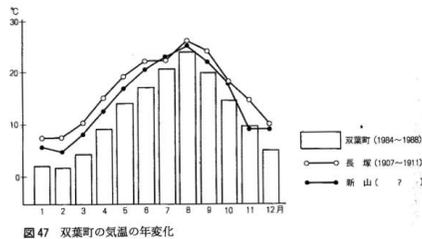
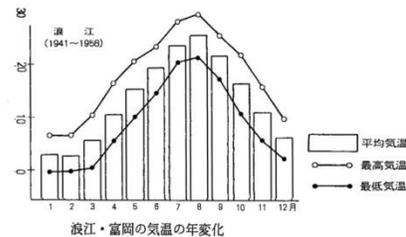


図 47 双葉町の気温の年変化
注) 双葉町と浪江町のデータは調査期間が異なるため比較はできない。
双葉町(1984-88)、浪江町(1941-58)



●気候

●冬はシベリア高気圧から吹き出す強い北西風が、奥羽山地以西で雪を降らせ、乾燥した空気が阿武隈山地を超えて「からっ風」となって吹き降ろす。

●春は、移動性高気圧と低気圧が交互に通過し、「五月晴れ」をもたらすが、夜間の放射冷却で晩霜の被害が起こることがある。

●梅雨は、停滞前線北上が遅れ、オホーツク気団からの冷たい北東風の影響が長期におよぶと、冷害を起こすことがある。北海道や岩手県よりも稲作の盛んな宮城県や福島県での影響が大きい。

●夏は高温潤湿な日が多くなり、海岸部では昼間に海風が吹くことが多くなる。

●秋には台風の影響で高潮や塩害が起こることがある。
(出典: 双葉町史、浪江町史別巻I)

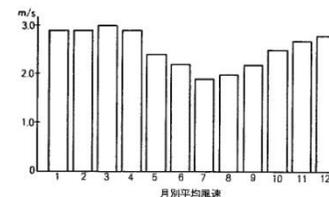


図 52 a 月別平均風速

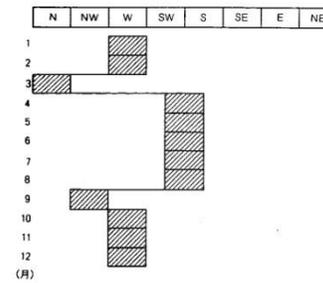


図 52 b 月別最多風向(1984～1988)

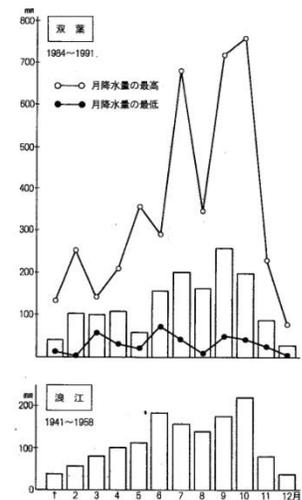


図 56 月別降水量

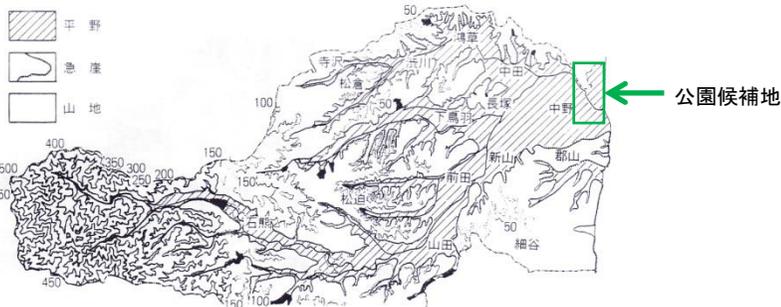
1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 自然条件(地形)

●地形

- 双葉町及び浪江町の地形は、西に阿武隈高地の山域と、東は阿武隈高地からのびる丘陵、および海岸平野となっている。
- 海岸平野は、阿武隈高地を水源とする河川が運んだ堆積物による段丘地と三角州性沖積平野からなっている。丘陵の一部は海まで伸び、海食崖をつくっている。
- 公園候補地は丘陵先端の一部と、前田川河口域を含む沖積平野に位置する。

- 公園候補地は前田川河口域に位置する。河口には三角州がみられ、中浜の集落寄りには、前田川の昔の河道跡が残されている。河口は沿岸流の影響により、砂州が発達して河口閉塞を起こしている。
- 河口の南北両側は砂浜海岸となっており、砂浜背後に標高の高い砂堤がみられ、また、その背後は標高の低い沖積平野となる。
- 公園候補地の中心となる水田地帯は、標高が海岸砂堤よりも低い前田川の沖積面にある。字名のひとつ「渋江」からは、かつては潟湖や入り江があったと思われるが、古代からの水田開発や現代の圃場整備などにより、自然地形は残っていない。

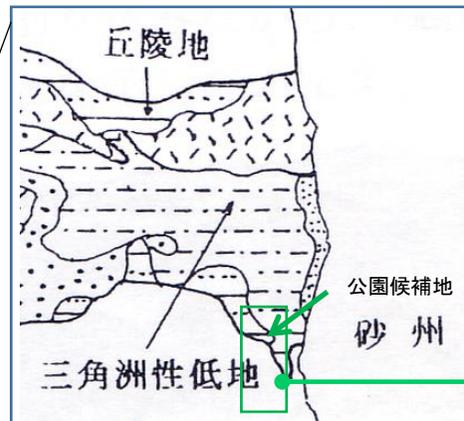
(出典:双葉町史、参考:杉谷・松本、風景の中の自然地理、1993、古今書院)



双葉町地形図



浪江町地形図



浪江町地形図(部分拡大)



公園候補地中心部および前田川河口部
(双葉町史の記述に基づき作図)

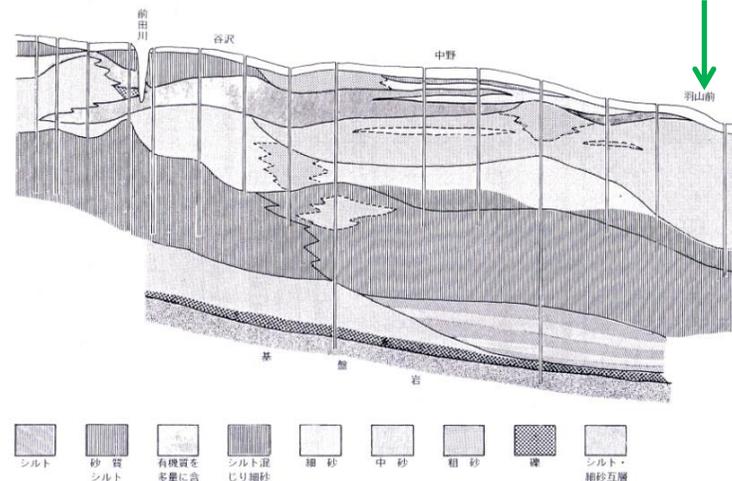
1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 自然条件(地質)

●地質

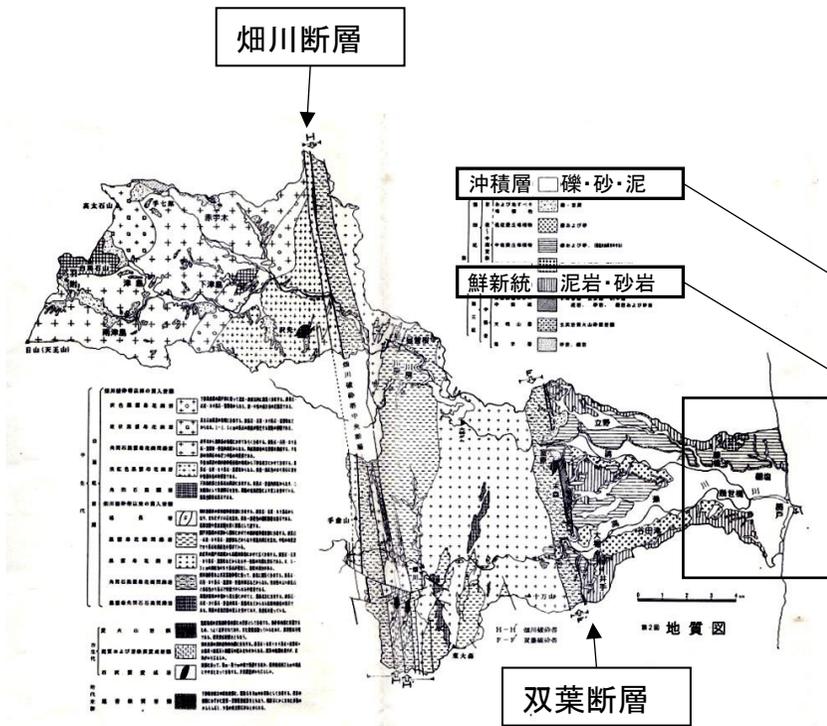
・阿武隈山地東部には双葉町・浪江町を横断する畑川・双葉の二つの断層があり、双葉断層を境に、以西が火成岩類、東側が堆積岩類となり、海岸平野部は沖積層となっている。

・公園候補地の地質は、丘陵先端部は鮮新統大年寺層の泥岩・砂岩であり、平野部は沖積層の礫・砂・泥からなっている。候補地近隣の両竹磨崖仏はこの泥岩・砂岩層に彫られている。
(出典：双葉町史、浪江町史別巻I)

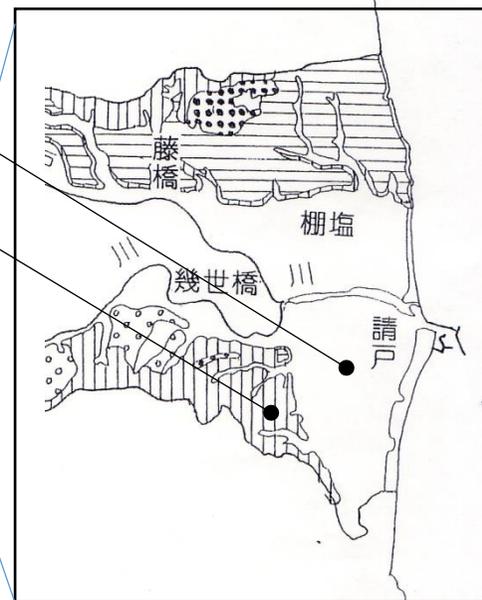
双葉・浪江両町の沿岸部



海岸平野地質断面図(双葉町史)



浪江町地質図(浪江町史別巻I)



地質図拡大図



図33 海岸平野の堆積物

海岸平野の堆積物(双葉町史)

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 自然条件(水系)

●水系

- 公園候補地の中央を前田川が貫流する。
- 公園候補地は水田を含むが、南半分の前田川右岸(南側)の双葉町の水田は前田川上流の取水堰からの用水が引かれ、北半分の浪江町の水田では、高瀬川の取水堰、および双葉町浪江町境界の丘陵部を水源とする溜池からの用水が、水田耕作に利用されている。これらの水路や水田は水生植物、魚類、水棲昆虫などの住処となっている。

(参考: 国土地理院地形図から作成)



前田川河口方面



図:水系参考図

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 自然条件(植生)

● 植生

< 概況 >

・双葉町・浪江町の沿岸部の植生は暖温帯に属する。暖温帯に分布する照葉樹林で、ヤブツバキクラス域と呼ばれる。

・ヤブツバキクラス域はさらに細かい群集に分類される。福島県浜通りでは、広野以北はシキミーモミ群集に移行するとされ、双葉町・浪江町はこの群集に属する。

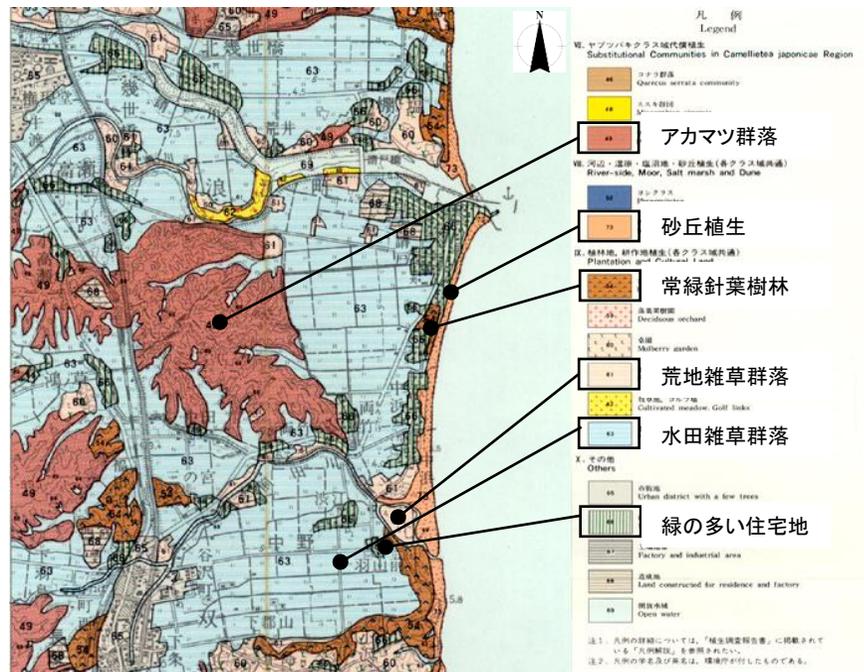
・この群集は、暖温帯のなかでもモミが点在するなど冷温帯への移行帯の要素がみられる。

・ヤブツバキクラス域の植生の多くは、人為干渉によって代償植生の二次林に置き変わり、双葉町・浪江町一帯ではアカマツ群落となっており、潜在植生であるヤブツバキクラス域の植生は、人為干渉の少ない社寺林や崖地などに残っている以外では見ることができない。

・公園候補地周辺では、諏訪神社境内と大平山東部の一部に潜在植生を見ることが出来るが、丘陵地の大部分は代償植生のアカマツ林となっている。

・丘陵部の沢筋にはヤチと呼ばれる湿地があり、湿性植物や水生植物などがみられる。

・公園候補地およびその周辺には、海岸植生として常緑針葉樹林(クロマツ林)と砂丘植生、前田川や水田周辺に荒地雑草群落、水田雑草群落、住宅周辺の生垣や竹藪などがある。



図：環境省現存植生図磐城富岡(部分)



スタジイ:ヤブツバキクラス域の代表種

注) 植物の画像の名称に続く()内の数字は本項文末の出典図書番号、番号なしは独自資料

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 自然条件(植生)

＜ヤブツバキクラス域の植生＞

- 一般的には沿岸部ではタブ・シイノキ林、内陸部ではカシ林となるが、福島県にはタブは自生していない。
- スタジイは福島県が太平洋岸の北限となっており、公園候補地周辺では、両竹の諏訪神社に古木がある。また、同神社には、千葉以西に分布するとされるモッコクの大木があり、隣接する大平山一帯に、モチノキ、ヒサカキ、シロダモが見られる。
- 内陸部ではカシ類となるが、浪江町大聖寺のアカガシ林が県指定天然記念物となっている。



ヒサカキ



モッコク(3)



モチノキ



シロダモ

＜丘陵地の植生＞

- 丘陵地には、ヤブツバキクラス域の代償植生であるアカマツ林が広がる。樹種は、アカマツ、モミ、崖地などに見られる常緑樹を除く樹種は以下の通りで、アセビ～コナラ群落ともまとめられる。

コナラ、アセビ、リョウブ、ナツハゼ、ネジキ、ホツツジ、ウメモドキ、イヌツゲ、アオダモ、クリ、ヤマザクラ、ヤマツツジ、ヌルデ、ガマズミ、エゴノキ、ヤブコウジ、キッコウハグマ、ヒロバジャノヒゲ、シュンランなど。

- 放置地には、アズマネザサ、ススキ、キキョウ、ヒヨドリバナ、ツリガネニンジン、ナンテンハギなど。



ネジキ



リョウブ
(3)



ヒヨドリバナ(5)



ツリガネニンジン(4)



シュンラン

注)植物の画像の名称に続く()内の数字は本項文末の出典図書番号、番号なしは独自資料

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 自然条件(植生)

＜公園候補地周辺で特筆される植物＞

- ・前田の大スギ(双葉町、県指定記念物)
- ・大聖寺のアカガシ林(浪江町、県指定天然記念物)
- ・焼策のケヤキ林(浪江町小丸焼策、境省特定植物群落)
- ・一の宮のヒメコマツ林(浪江町小丸、環境省特定植物群落、北限)
- ・ハマナス(請戸浜一帯、環境省絶滅危惧II類)
- ・ナツエビネ(双葉郡富岡、環境省絶滅危惧II類)
- ・ハマカキラン(エゾスズランの変種、浪江町のクロマ林、環境省絶滅危惧II類、)
- ・エゾノレンリソウ(レンリソウの亜種、浪江町の海岸林、環境省準絶滅危惧)

植生関係出典 (1) 双葉町史/ (2) 浪江町史別巻I/ (3) 日本の重要な植物群落II 東北/報2 環境庁編/ (4) ふくしまの滅びゆく植物たち/2006, いわき自然塾、(5) 日本の樹木, 1985, 山と溪谷社/ (6) 日本の野草, 1983, 山と溪谷社/ (6) 相馬・双葉今昔写真帳一保存版, 2005, 郷土出版社



双葉町前田の大スギ(6)



浪江町大聖寺のアカガシ林(2)

ハマナス：太平洋側では茨城県を南限とし、かつては浜通りに広く自生していた。大正期の調査では浪江町方言で「だんぶ」とよばれ、請戸川を遡って支流の高瀬川沿川まで分布していた。浜の利用、野焼き、自然海岸の減少、園芸採取などによって消滅した。現在、双葉町郡山の海岸公園に植栽されたものを見ることが出来る。

(渡辺武、歴史探訪/相双と常陸)



ハマナス(4)



ナツエビネ(4)



ハマカキラン(4)



エゾノレンリソウ(4)

注)植物の画像の名称に続く()内の数字は本項文末の出典図書番号、番号なしは独自資料

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 自然条件(哺乳類・鳥類)

●哺乳類

双葉町と浪江町には、合わせて27種類の哺乳類が記録されている。環境省の絶滅危惧種等は生息しない。
なかでは、イノシシが棲息を広げ、キツネやタヌキが人家近くでの目撃が増える傾向がある。

食中目：ニホンカワネズミ、ジネズミ、ホンシュウヒミズ、アズマモグラ

翼手目：キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、アブラコウモリ

ウサギ目：ニホンノウサギ

ゲッ歯目：ニホンリス、ムササビ、ニホンモモンガ、ヤマネ、ハクネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ハツカネズミ、ドブネズミ、クマネズミ

食肉目：ホンドギツネ、ホンドタヌキ、ニホンテン、ニホンイタチ、ニホンアナグマ、ハクビシン

偶蹄目：イノシシ、カモシカ

霊長目：ニホンザル

●鳥類

双葉町・浪江町には合わせて14目、37科、101種の鳥類が記録されている。このうち、ハヤブサ、及び、オオタカは環境省レッドデータブックにおいて絶滅危惧II類に分類されている。阿武隈高地に属する両町の西部と、東の平野・海岸地帯とでは環境が大きく異なり、野鳥の種類も異なる。当該公園候補地のある平野・海岸部で確認されている鳥類は以下の種類を含む。

平野・海岸部で見られる鳥類

ハシボソカラス、ハシブトカラス、ヒヨドリ、メジロ、シジュカラ、ウグイス、トビ、ハヤブサ、ツバメ、イワツバメ、アオジ、ホオジロ、ムクドリ、ノスリ、モズ、スズメ、ヒバリ、キジバト、オオヨシキリ、カイツブリ、チュウサギ、ゴイサギ、アオサギ、コサギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、イソシギ、イソヒヨドリ、カモメ、セグロカモメ、ウミネコ、ユリカモメ、ウミウ、シロチドリ、カルガモ、ツグミ、カシラダカ、クロガモ、ジョウビタキ、カワラヒワ、トウネン、ガビチョウ(外来種)、キジなど



ホンドキツネ



アズマモグラ



チュウサギ



ゴイサギ



イソシギ



ニホンノウサギ



キクガシラコウモリ



カイツブリ



ハヤブサ



イソヒヨドリ

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 一 自然条件(爬虫類・両生類・魚貝類・昆虫)

●爬虫類

4科10種が記録されている。

(イシガメ科)アカミミガメ(帰化種)、(トカゲ科)ニホントカゲ、(カナヘビ科)カナヘビ、(ヘビ科)タカチホヘビ、シマヘビ、ジムグリ、ヒバカリ、アオダイショウ、ヤマカガシ、(クサリヘビ科)マムシ

●両生類

5科15種類が記録されている。これらのうち、トノサマガエルが環境省準絶滅危惧に指定されている。ヤマアカガエル、カジカガエルは山地にのみ生息している。

(サンショウウオ科)トウホクサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、(イモリ科)イモリ、(ヒキガエル科):ニホンヒキガエル、(アマガエル科)アマガエル、(アカガエル科)ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル(帰化種)、モリアオガエル、カジカガエルなど



ヤマカガシ



ジムグリ



モリアオガエル



トウホクサンショウウオ

●淡水性魚類

両町合わせて25科71種が記録されている。なかでは、ヤマメが環境省準絶滅危惧となっている。

(ヤツメウナギ科)スナヤツメ、(ウナギ科)ウナギ、(サケ科)サケ、イワナ、ヤマメ、ニジマス、(コイ科)ウグイ、オイカワ、コイ、ギンブナ(ドジョウ科)ドジョウ、(ナマズ科)ナマズ、(ハゼ科)ヌマチチブ、など

●淡水二枚貝類

6種の淡水二枚貝の記録がある。そのうち、カワシンジュガイ、マツカサガイは、それぞれ環境省絶滅危惧種II類、絶滅危惧に指定されている。

●昆虫

チョウ類96種、蛾114種、トンボ類41種、バッタ・コオロギ類29種、タガメなど水棲昆虫8種、セミ8種などが記録されている。(資料に甲虫は含まれていない)(出典:双葉町史、浪江町史別巻I)



サケ



カワシンジュガイ



アオスジアゲハ



タガメ

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 自然条件(景観)

●自然景観-昔の双葉・浪江の風景映像から



海食崖(郡山海岸双葉海水浴場 昭和29年)



砂浜と砂丘(双葉海水浴場、昭和43年、2014 写真アルバム 相馬・双葉の昭和、いき出版)



クロマツ林(双葉海水浴場、昭和43年、2014 写真アルバム 相馬・双葉の昭和、いき出版)

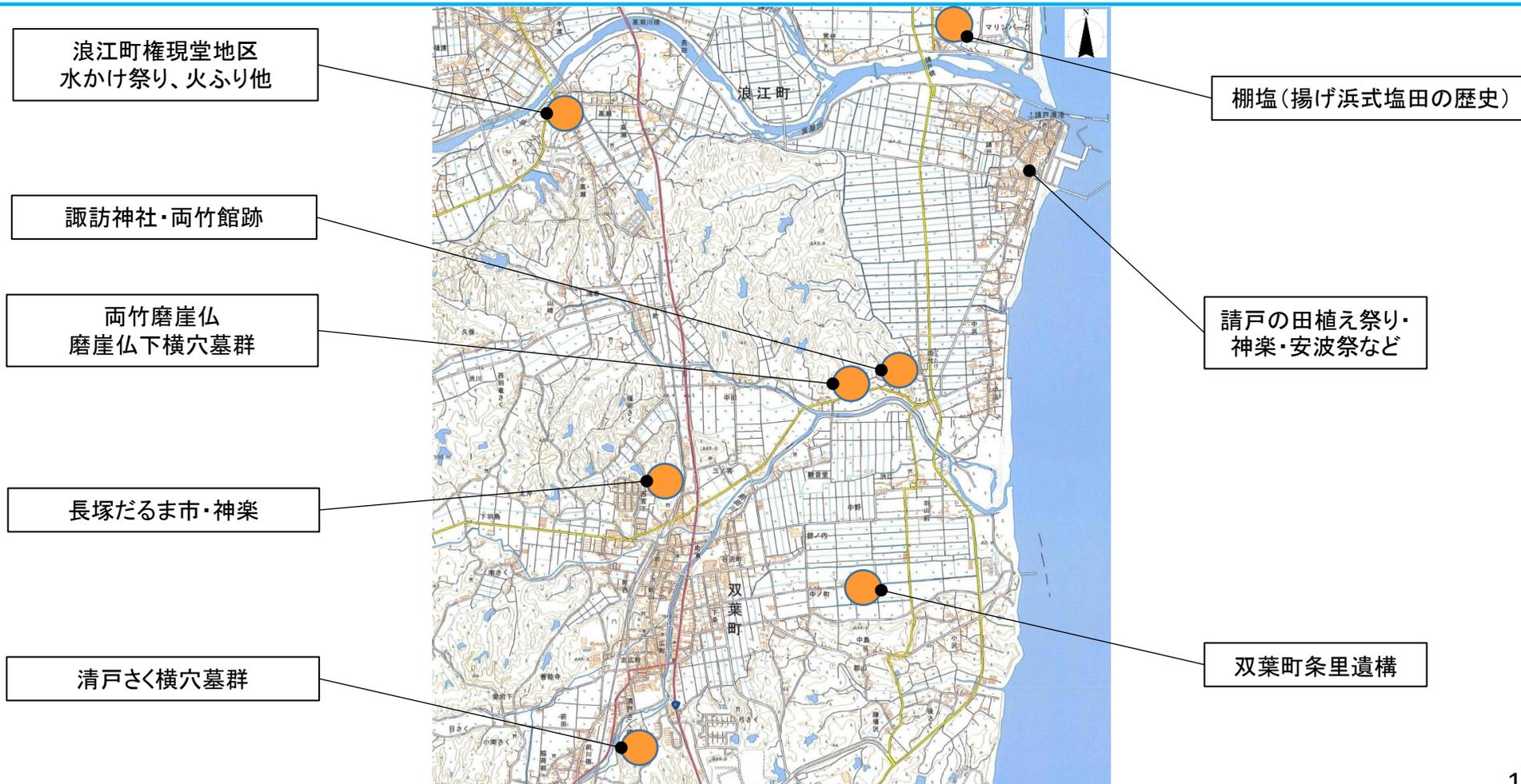


請戸川河口(川港、大正期、出典:石原敬彦、1997 目で見える相馬・双葉の100年、郷土出版社)

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 歴史文化条件

●公園候補地周辺の歴史・文化条件の整理

- ・公園候補地周辺は、貝塚や古代の横穴墓遺跡、条理跡などが多く存在し、長い居住の歴史がある。また戦国時代初期から明治維新まで相馬氏が継続して治めた珍しい歴史を持ち、公園候補地西側丘陵部の諏訪神社周辺には、相馬藩防備のひとつである両竹館跡がある。
- ・大堀相馬焼、塩田跡、磨崖仏等のほか、各種祭り、神楽、田楽・踊りなどの民族芸能などが盛んな土地柄であり、震災後も避難地等で活動が再開されている。また、震災後、平成24年に、福島県では、ふくしまの民族芸能をはじめ、国内外の伝統芸能が一堂に会した「地域伝統芸能全国大会福島大会(愛称:ふるさとの祭り)」が開催され、その後、平成25年からは、県内被災団体を中心とした福島県版「ふるさとの祭り」が毎年県内で開催されている。現在の開催会場は公園・広場などであるため、今後、本公園との連携も考えられるのではないか。



1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 歴史文化条件(埋蔵文化財)

●相双地域(公園候補地を中心とした)の歴史概要

<～縄文・弥生時代>

- ・相双地域での人間の歴史は旧石器時代より始まったとされ、浪江町などでも剥片石器が出土している。
- ・氷河期の終わりと共に、海面が上昇する「縄文海進」と呼ばれる海岸線の後退が、縄文時代前期約6,000年前頃をピークとして起こった。
- ・小高町貝塚群は、この時期の貝塚として知られている。また公園候補地周辺の水田地帯も海進の影響を受けていたと考えられる。
- ・縄文時代以降の遺跡が主に丘陵部に集中しているのは、この海進と津波等の自然災害を避けた結果ということが裏付けられる。
- ・縄文中期の花積下層式土器が相双地区全体に分布し、縄文期の遺跡としては浪江町の鳥身、猿田、植ノ畑、菅深などがある。
- ・弥生時代の遺跡は浪江町上の原などがあり公園候補地周辺には郡山5番遺跡(A-7)が見られる。



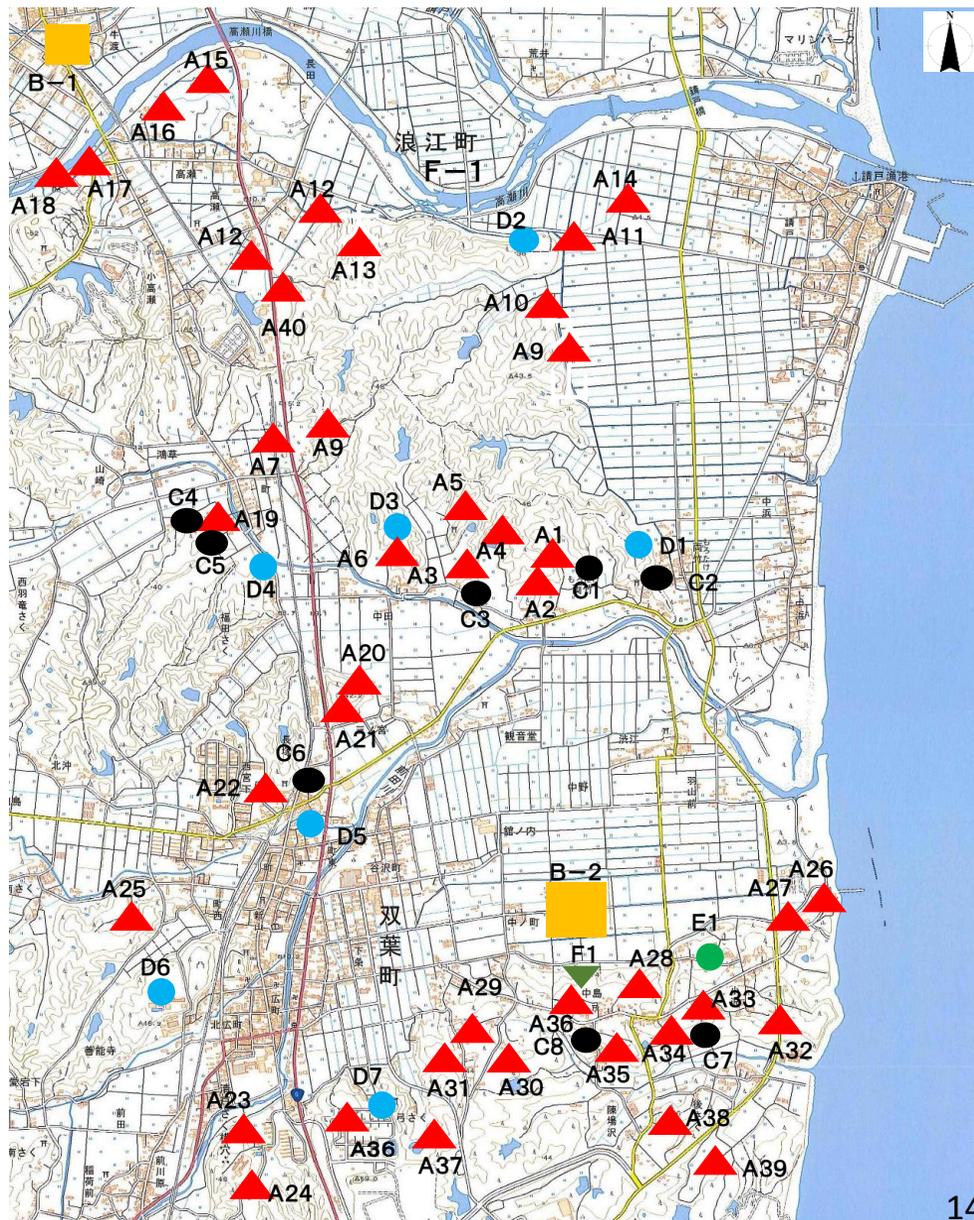
小高町の貝塚分布と縄文時代前期の海岸線想定図

記号	名称
▲	古墳・崖物
■	条理遺構
●	社寺跡
●	城館跡
●	馬場
▼	貝塚

<古墳時代～平安時代>

- ・古墳時代の初期4世紀末の遺跡として浪江町の本屋敷1号墳、中期6世紀後半には公園候補地周辺(両竹地区)の摩崖仏下横穴墓群(A-1)、少し離れて稲荷迫横穴墓群(A-5)、狸穴横穴墓群(A-6)などがあることから、古墳時代から重要な地であり、双葉町の彩色壁画を持つ装飾古墳として清戸迫横穴墓群(A-9・国指定)が有名である。
- ・奈良時代以降では、条里型地割が浪江町側(B-3)および、双葉町側(B-2)で確認されており、この地区で広範に水田耕作が行われていた。
- ・平安時代に入ると標葉郡四郷など荘園が各地に乱立した。

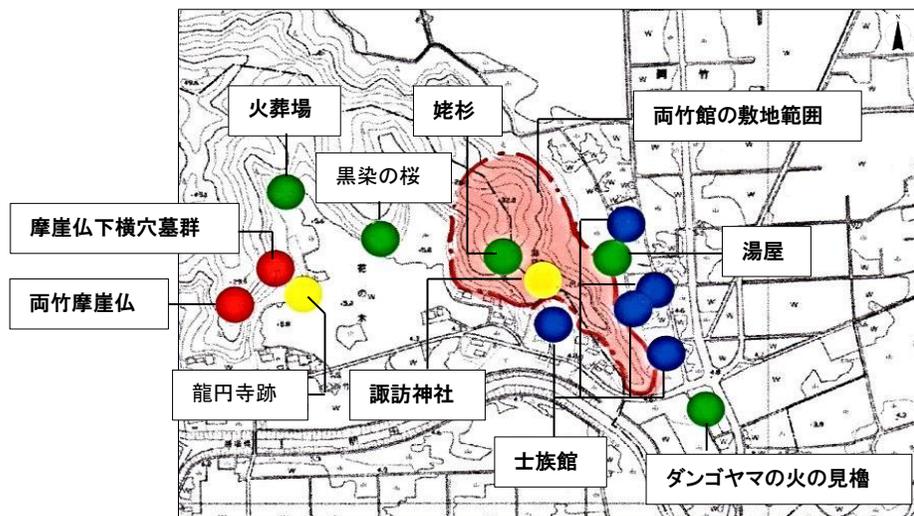
■埋蔵文化財周辺分布図(出典:福島県遺跡地図 1996 福島県教育委員会より引用)



1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 歴史文化条件(埋蔵文化財)

<鎌倉時代～江戸時代>

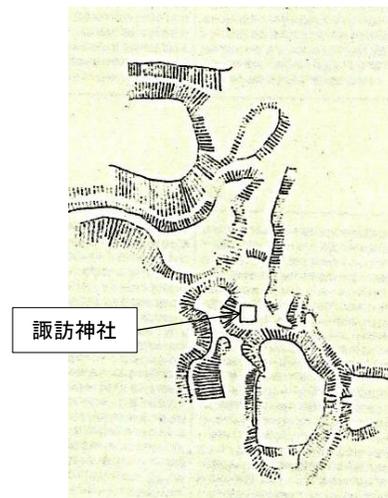
- ・鎌倉時代以降この地域は標葉氏の支配下となるが、戦国時代の初期 1492年相馬氏が標葉氏を滅ぼし相馬氏の直接支配となり、この地域は<標葉郷>と呼ばれていた。
- ・室町時代の両竹摩崖仏(A-2)が知られており、戦国時代の相馬氏の城館跡も両竹館(D-1)を中心に周辺に多数分布し、相馬氏の国境守備を担う重要な軍事拠点であった。
- ・江戸時代に入り中村藩南標葉郷に属し、1600年代初め泉田家が公園候補地の西側丘陵部にある両竹館に居住。
- ・両竹村は中村藩が在郷給人制を行っていたため、村内に給人・郷士が多数居住しており、震災以前までその系譜を継ぐ人々が居住していた。公園候補地周辺は水田地帯であったが請戸港は当時中村藩の主要港のひとつであった。



両竹村の歴史遺産(泉田邦彦氏資料より)

<明治～現代>

- ・明治維新では中村藩は奥羽越列藩同盟に一員として戊辰戦争を戦い、追討軍に降伏した。
- ・太平洋戦争時には横穴墓を防空壕として利用したと伝えられている。
- ・この地域は明治以後昭和30年代の高度成長期以前まで基本的な土地利用には大きな変化がなかった。



両竹館縄張図(諏訪神社付近 泉田邦彦氏作図資料より)



国土地理院地図(1910年・明治10年)

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 歴史文化条件(埋蔵文化財)

●古墳・崖仏・貝塚

- A1 摩崖仏下横穴墓群(古墳時代・近中世 横穴墓)
- A2 両竹摩崖仏(中世 石造物)
- A3 大仏前横穴墓群(古墳・近世)
- A4 稻荷迫横穴墓群(古墳)
- A5 狸穴横穴墓群(古墳)
- A6 中田西迫横穴墓群(古墳)
- A7 鴻草摩崖仏
- A8 東横穴墓群
- A9 大平山B横穴墓群(古墳・奈良)
- A10 大平山古墳群(古墳)
- A11 大平山遺跡
- A12 小高瀬迫横穴墓群(古墳)
- A13 大平山A横穴墓群(古墳)
- A14 鍛冶屋川原遺跡(奈良・平安 土師器)
- A15 堀之内遺跡(古墳～平安・土師器、石製模造品)
- A16 塚ノ腰遺跡(古墳・土師器)
- A17 清水遺跡(奈良・平安 土師器)
- A18 小山迫遺跡(縄文～・奈良・縄文土器、土師器、須恵器)
- A19 西台遺跡
- A20 寺内前古墳(古墳～中世・土師器、須恵器、渥美系壺)
- A21 寺内迫横穴墓群(古墳・土師器、直刀、勾玉、鉄鍬、刀子、金剛製釧)
- A22 西宮下横穴墓群(古墳)
- A23 清戸迫古墳群(古墳)
- A24 清戸迫横穴墓群(古墳・土師器、須恵器、勾玉、木製品-国指定)
- A25 深谷A遺跡(弥生～平安・弥生土器、土師器、須恵器)
- A26 沼ノ沢古墳群・遺跡(古墳・須恵器、直刀、玉類、鉄鍬、釧、埴輪)
- A27 小沢古墳群(古墳)
- A28 郡山5番遺跡(官衛・縄文～平・近代・縄文弥生土器、土師器、須恵器石器、鉄器・瓦)
- A29 西ノ塚古墳群(古墳・土師器、須恵器、石棺)
- A30 西原沼遺跡、西原A・B・C遺跡
- A31 権現塚古墳(古墳・須恵器)
- A32 東原A・B, 四朗田A・B遺跡
- A33 台遺跡
- A34 鹿島原遺跡
- A35 堂ノ上遺跡
- A36 漆迫遺跡
- A37 弓迫B横穴墓群 A38 後迫A・B遺跡 A39 久保谷遺跡 A40 弥平迫遺跡・東原遺跡



摩崖仏下横穴墓群(古墳時代・近中世 横穴墓)



清戸迫古墳群(古墳)壁画

●条里遺構

- B1 浪江町条里遺構
- B2 双葉町条里遺構

●寺社跡

- C1 龍円寺跡(近世 泉田氏提寺)
- C2 円通寺跡(近世 旭観音)
- C3 真福寺跡(近世)
- C4 鹿島神社跡
- C5 光徳寺跡
- C6 安養院跡
- C7 鹿島神社跡
- C8 満福寺跡時

●城館跡

- D1 両竹館跡(泉田氏 中・近世 城館跡)
- D2 大平山城跡(中世)
- D3 中田館跡(中世・土塁、郭)
- D4 鴻草館跡
- D5 南標葉郷陣屋跡
- D6 新山城跡(中世・近世・土塁、空堀・郭)
- D7 東館遺跡

●馬場

- E1 馬場A・B・D遺跡

●貝塚

- F1 郡山貝塚

■出典資料

福島県遺跡地図 1996 福島県教育委員会
図説相馬・双葉の歴史 2000 西他 郷土出版社
双葉町史
藩大辞典「中村藩」
相馬・双葉観光パーフェクトガイド 1987 郷土出版社
警戒区域における「地域の記憶」継承絵の取り組み 泉田邦彦
鎌倉末・南北朝期の標葉室原氏「相馬郷土」30号 泉田邦彦
震災から3年を経た警戒区域の今 2014 泉田邦彦

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 歴史文化条件(無形文化財)

●双葉町・浪江町の無形文化財

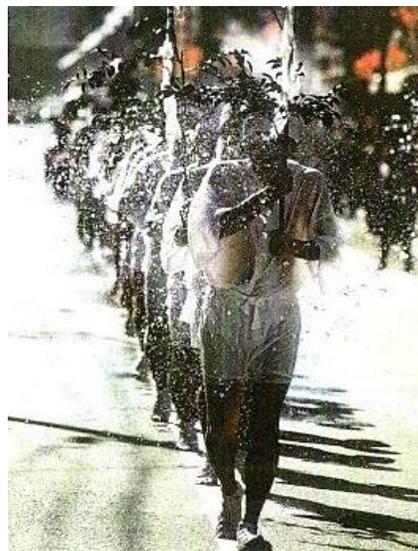
<祭り>

・震災以前で確認されている両町の祭り(市))は、双葉町7箇所、浪江町9箇所に及ぶが、2014年5月20日時点で再開が確認されているのは双葉町ダルマ市、盆踊り、浪江町の請戸の安波様、幾世橋の裸詣、十日市の5箇所のみである。

■双葉町・浪江町の主要な祭り



A2 ダルマ市(*1)



A6 鎮火祭(水かけ祭り)(*2)

■写真資料出典は
 *1「相馬・双葉の昭和:写真アルバム」2014
 *2「財界ふくしま 2015・4月号」

記号	名称	所在地	日時	内容
A1	初爨神社御遷宮	双葉町長塚 近年郡山の双葉海水浴場で開催	12年に1度 旧暦3月21日前 後3日館	神楽、田植踊
A2	ダルマ市	双葉町長塚	1月の第2土・日	初日どんと祭り2日 目奉納神楽大会
A3	盆踊り	双葉町各集落ごと	お盆期間	
A4	源弱山の火あかし	双葉町鴻草字東迫る	8月14日	火祭り
A5	八幡神社の秋祭り	双葉町山田	旧8月15日	
A6	鎮火祭(水かけ祭り)	浪江町大字権現堂	1月8日	
A7	不動市	浪江町藤橋		
A8	アンバサマ(安波祭り)	浪江町請戸	2月24日	神輿渡御、獅子田楽、 田植踊
A9	十日市	浪江町	11月23日ごろの 3日館	
A10	裸詣	浪江町幾世橋	旧1月8日 では権現	
A11	村祈祷	浪江町大堀	1月14日ごろの 日曜日	
A12	火ふり	浪江町大堀・井手		

■無形文化財のリスト及び記述は以下の出展資料から作成した。
 「福島地域の無形文化財被災報告書2011～2013」民俗芸能学会 福島調査団
 インターネット検索サイト「被災地の祭礼行儀および民俗芸能現況一覧」

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 ー 歴史文化条件(無形文化財)

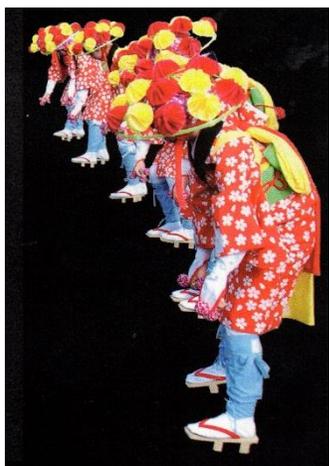
<神楽・田楽・踊り>

・双葉町、浪江町の伝統的な神楽・田楽・踊りは盛んで確認できているものは85以上もある。特に浪江町で盛んであった。中でも「津島の田植踊り」は国の選択無形民俗文化財となっており有名である。また、震災からの復活を目指した各地の試みも始まっている。

■双葉町、浪江町代表的な神楽・田楽・踊り



B2 新山の神楽(*4)



D1 請戸の田植え踊り(*3)



C1 前沢女宝財踊り(*4)



D2 津島の田植え踊り(昭和50年代)(*2)

記号	名称	分類	所在地	特徴
B1	両竹の神楽	シシ芸	双葉町両竹	1月2日・13日、8月26日諏訪神社、初発神社等
B2	新山の神楽	シシ芸	双葉町新山	1月13・18日 初発神社・新山神社、 150年の歴史
B3	三字の神楽	シシ芸	双葉町前田・水沢・目迫	ダルマ市で公開
B4	請戸の神楽	シシ芸	浪江町請戸	2月24日 苜野神社・民家
B5	川添の神楽	シシ芸	浪江町川添	1月2日、7月16日 国玉神社・民家
B6	高瀬の獅子舞	獅子舞	浪江町高瀬	7月24日、8月14日 諏訪神社、八幡神社
C1	前沢女宝財踊り	踊り	双葉町郡山	ダルマ市で公開
D1	請戸の田植え踊り	田楽	浪江町請戸	2月24日 苜野神社
D2	津島の田植え踊り	田楽	浪江町下島津	1月14～17日 稻荷神社・民家 国の選択無形民俗文化財



B6 高瀬の獅子舞(昭和30年代)(*1)

■無形文化財のリスト及び記述は以下の出展資料から作成した。
「福島地域の無形文化財被災報告書2011～2013」民俗族
芸能学会 福島調査団
インターネット検索サイト「被災地の祭礼行儀および民俗芸能
現況一覧」

「相双歴史散歩」植田龍著 2003

■写真資料出典は

*1「相馬・双葉の昭和写真アルバム」2014

*2「財界ふくしま 2015・4月号」

*3「福島地域の無形民俗文化財被災調査報告書2011～2013」

*4ふるさとの祭り伊IN南相馬 パンフレット

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — ネットワーク資源

●周辺ネットワーク資源

・公園候補地周辺の徒歩圏(～4km)内の双葉・浪江両町の主要な拠点として、公園緑地5箇所、文化施設2箇所、観光レクリエーション施設4箇所、社寺及び文化財5箇所があった。今後、これらの主要拠点の再開時期を見ながら、震災遺構となり得る4箇所と併せて、復興祈念公園との連携を図っていくネットワーク資源となるのではないかと。



いこいの村なみえ ※3



双葉町歴史民俗資料館 ※4



双葉町総合公園 ※4



前田の大杉 ※4



清戸粕横穴墓群の壁画 ※4

- 公園緑地
- 文化施設
- 観光レクリエーション施設
- 社寺・文化財
- 震災遺構



請戸海水浴場 ※1



双葉海浜公園 ※2



双葉海水浴場 ※2

写真出典

- ※1: なみえ復興レポート・浪江町
- ※2: ときわじパンフレット・双葉町
- ※3: なみえ農・林・魚家生活体験
浪江町教育プロジェクト運営委員会
- ※4: 双葉町観光パンフレット・双葉町

1. 震災前の公園候補地周辺エリアの状況 — 教育的ツアー等の資源

●教育的ツアー等の資源

・双葉・浪江両町では、震災前に地域の自然・歴史・文化・産業等のネットワークを活用した多様な体験ツアーや教育旅行プロジェクトが企画運営されていた。これらのツアー実績は、今後、復興祈念公園との連携を図っていく上での有用な資源と考えられるのではないか。

●双葉町の震災前に実施していたプログラム

ときわじ散策ツアー

・ばら園散策や双葉海水浴場散策、せんだん温泉、ふれあいふたば産地直売所

春の体験ツアー

・ばら園散策や山野草盆栽づくり、特産物の収穫体験、そば打ち・餅つき体験。

秋の体験ツアー

・ばら園散策や山野草盆栽づくり、特産物の収穫体験、伝統工芸の大堀相馬焼の見学、国指定文化財「清戸(さく)装飾横穴墓」見学、特産物の収穫体験、そば打ち・餅つき体験。

●浪江町の震災前に実施していたプログラム

農業体験

・稲作や果樹栽培、酪農などにおける農作業体験や収穫加工も含めた14プログラム。

林業体験

・植林地の管理やキノコ栽培、木工クラフト、炭焼などを含めた8プログラム。

漁業体験

・請戸魚市場や魚加工施設の見学、魚のさばき体験、鮭の稚魚放流など12プログラム。

陶芸体験

・地域の伝統工芸である相馬大堀焼の作業過程体験成4プログラム

その他

・地域の自然環境を活かした自然観察や地域の歴史・文化を訪ねるなど19プログラム、5講座

双葉町体験ツアーの主要なツアー拠点参考例

双葉町ばら園 ※1



双葉町海水浴場 ※1



ふれあいふたば産地直売所 ※1



写真出典※1:ときわじパンフレット・双葉町

浪江町教育プロジェクトのプログラム参考例

屋外 1 **田植体験・田の草取り**
【社会と総合的な学習】

水田に素足で入り、土の感触を楽しみながら、苗を手作業で植えます。水田の中の草取りやそこに住む虫、小魚達の観察を行います。

実施時期：(1)4月中旬～5月下旬
(田植体験)
2)6月上旬～7月上旬
(田の草取り)

体験時間：1時間 30分
体験人数：50名×2班

屋外 11 **森林作業見学**
【総合的な学習】

成長の良い木の周りにある成長の悪い木や雑木の伐採作業、森を育てるプロの作業の見学をします。

実施時期：10月～2月
体験時間：1時間
体験人数：10名×4班

屋外 15 **鮭稚魚の放流体験**
【総合的な学習】

鮭の稚魚をバケツに入れ川に放流します。

実施時期：1月中旬～3月中旬
体験時間：1時間
体験人数：10名×5班

屋内 10 **伝統的工芸品 大堀相馬焼絵付け体験**
【図画工作】

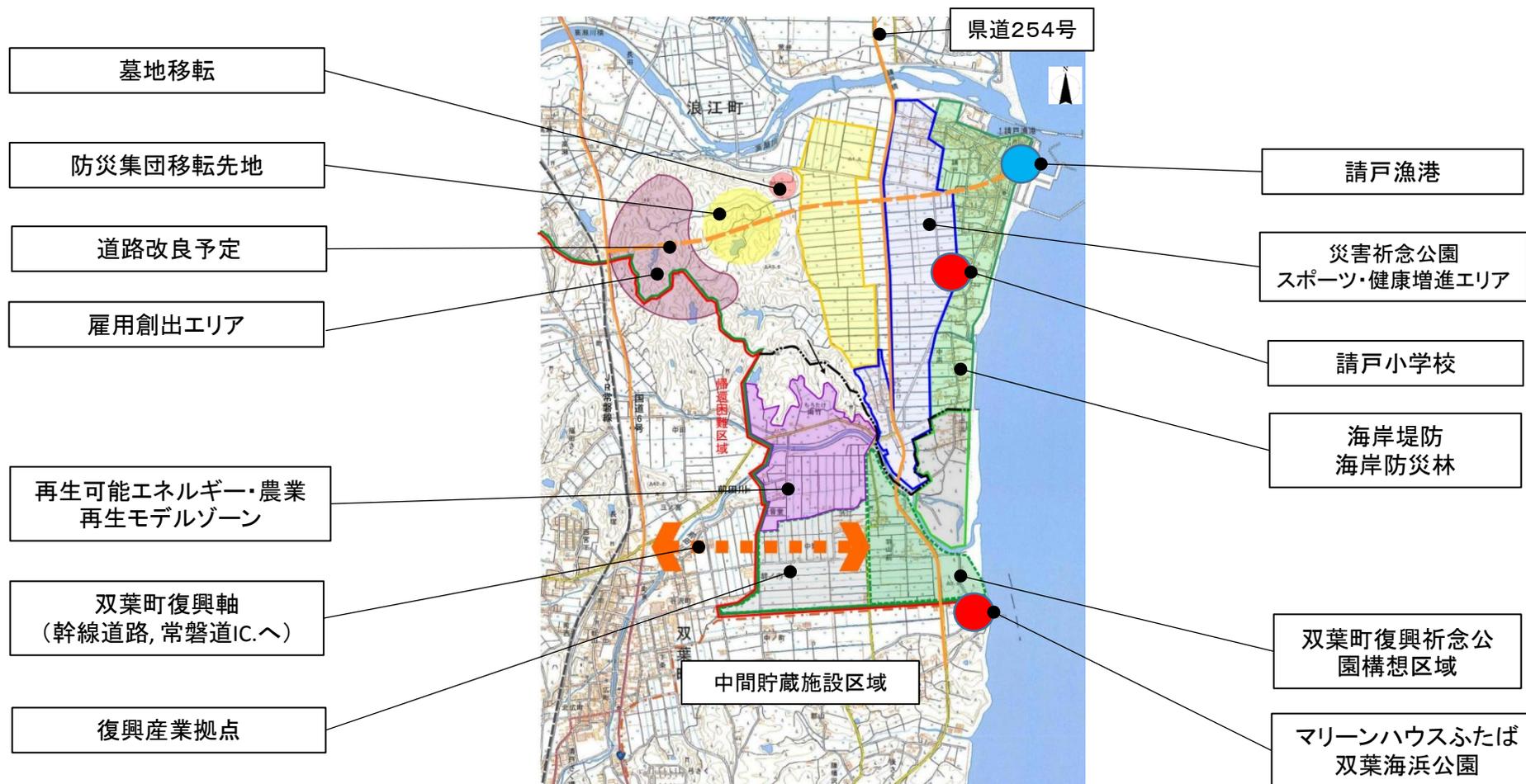
素焼きの湯呑、コーヒーカップ、皿に自由に絵具を使って好きな絵、文字、模様を描きます。

実施時期：通年
体験時間：1時間
体験人数：100名
備 考：作品は45日後にはお手元に届きます。

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — 復興計画・震災遺構

●公園候補地周辺の復興計画及び震災遺構

- 公園候補地に接しては、基盤となる海岸堤防、海岸防災林などの整備が計画されているほか、まちの復興にむけて、双葉町では復興産業拠点、再生エネルギー・農業再生モデルゾーン、復興祈念公園等が計画されている。浪江町では、スポーツ健康増進エリアなどがあり、丘陵地帯には防災集団移転先地が計画されている。
- 公園候補地周辺には、マリンハウスふたば、請戸小学校などの震災遺構があり、今後、公園との連携を図っていくことができるのではないか。



2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — 福島県内の他の復興祈念施設

●福島県内の他の復興祈念施設の整備概要

- ・福島県における他の復興祈念施設に関する市町村アンケート調査を実施し、追悼・鎮魂や、震災の記録の保存、記憶の継承に関する施設等の整備の有無及び今後の整備予定について把握した。
- ・県内における震災の追悼・鎮魂に関する施設は、その多くが浜通り地方に整備又は整備予定となっている。また、追悼・鎮魂だけでなく、震災の伝承や復興のシンボル施設が中通り、浜通り地方の一部で整備されている。
- ・浜通り地方では、平成27年3月に常磐道が全線開通したことから、復興祈念公園近隣の浪江ICや双葉IC(平成32年追加予定)から高速交通体系を利用した連携が可能な状況にある。

復興のシンボルとして、社会教育施設、復興シンボルレリーフ、記念モニュメントを整備済

震災の記録や記憶を継承する施設として、震災復興のシンボルモニュメントを整備済



追悼・鎮魂施設(慰霊碑・広場)を整備予定
震災の記録や記憶を継承する施設として、公園、アーカイブセンターを整備予定

追悼・鎮魂施設(慰霊碑・顕彰碑・祈念館)を整備済であり、震災公園を整備予定

追悼・鎮魂施設(広場)のほか、震災の記録や記憶を継承する施設の整備を検討中

追悼・鎮魂施設(慰霊碑)を整備済であり、復興祈念公園・アーカイブセンターを整備予定

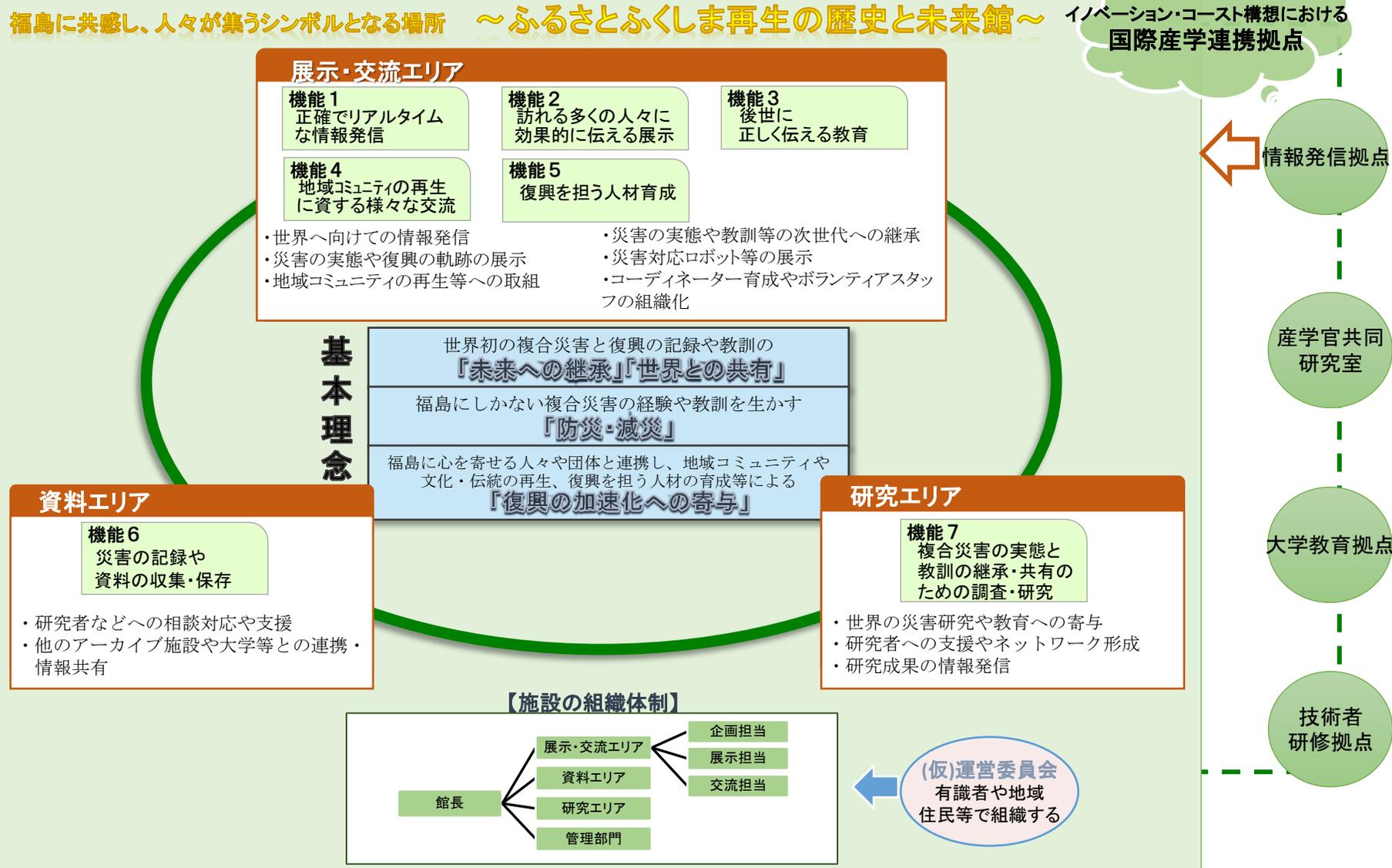
追悼・鎮魂施設の整備を検討中

追悼・鎮魂施設の整備を検討中

追悼・鎮魂施設の整備を検討中

震災の記録を残すための記念公園を整備中

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — アーカイブ拠点計画の概要



※東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議より

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — 避難居住地の概要と帰還意向(双葉町)

●双葉町の避難居住地の概要と帰還意向

- ・町内全域7,100人超の町民がすべて避難対象となり、現在も避難指示が継続している。
- ・避難先は、38都道府県に及び、福島県内58.0%、福島県外42.0%で、福島県内の避難先内訳は浜通り56.7%、中通り39.8%、会津3.5%となっている。
- ・平成26年に実施した避難解除後の帰還意向調査では、「戻らない」が55.7%、「戻りたい」が12.3%、「判断がつかない+無回答」が33.8%であった。
- ・前回調査(平成25年)では「現時点では戻らない」と回答した人が67.4%であったが、平成26年調査では、「現時点で戻りたいと考えている」、「現時点でまだ判断がつかない」が増加している。

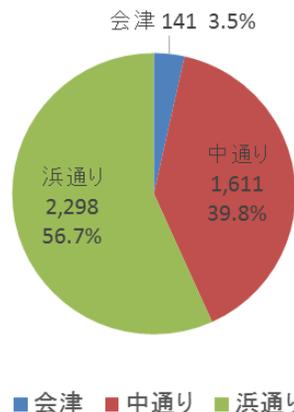
震災前の人口

町名	人口	世帯数	備考
双葉町	7,122人	2,611世帯	

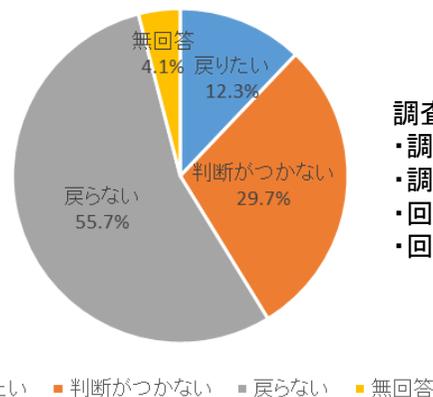
震災後の避難居住地の概要

町名	福島県内	福島県外	備考
双葉町	4,050人 (58.0%)	2,934人 (42.0%)	

福島県内避難先の分布(単位:人)



避難指示解除後の帰還意向



調査概要

- ・調査対象: 世帯代表者3,371世帯
- ・調査時期: 平成26年9月
- ・回収数: 1,738世帯
- ・回収率: 51.6%

資料出典:「双葉町における被災の現状と復興への課題」・平成27年10月より引用
: 双葉町ホームページ 避難状況(平成27年11月1日現在)より

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — 避難居住地の概要と帰還意向(浪江町)

●浪江町の避難居住地の概要と帰還意向

- ・町内全域21,000人超の町民がすべて避難対象となり、現在も避難指示が継続している。
- ・避難者先は、45都道府県に及び、福島県内が69.3%、福島県外が30.7%で、福島県内の避難先内訳は浜通り34.1%、中通り62.9%、会津3.0%となっている。
- ・平成26年8月に実施した避難解除後の帰還意向調査では、「戻らない」が48.4%、「戻りたい」が17.6%、「判断がつかない+無回答」が34.0%であった。
- ・前回調査(平成25年)では「現時点では戻らない」と回答した人が37.5%であったが、平成26年調査では、「現時点で戻りたいと考えている」、「現時点でまだ判断がつかない」が減少し、戻らないが10.9ポイント増加している。

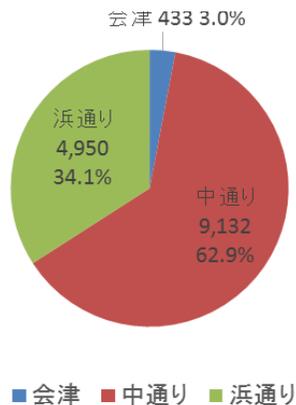
震災前の人口

町名	人口	世帯数	備考
浪江町	21,434人	7,671世帯	

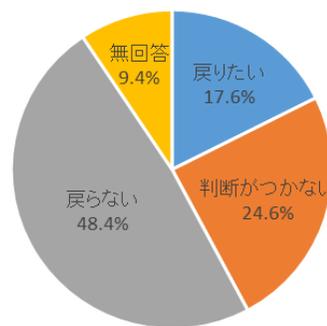
震災後の避難居住地の概要

町名	福島県内	福島県外	備考
浪江町	14,523人 (69.3%)	6,431人 (30.7%)	

福島県内避難先の分布内訳(単位:人)



避難指示解除後の帰還意向



調査概要

- ・調査対象: 世帯代表者9,749世帯
- ・調査時期: 平成26年8月
- ・回収数: 5,796世帯
- ・回収率: 59.5%(前年度63.5%)

■戻りたい ■判断がつかない ■戻らない ■無回答

資料出典:「なみえ復興レポート」・平成27年10月より引用

:「浪江町復興まちづくり計画」平成26年3月より引用

:浪江町ホームページ 町民の避難状況(平成27年10月31日現在)より

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — 福島県内の市町村別将来推計人口の状況

●市町村別将来推計人口の状況

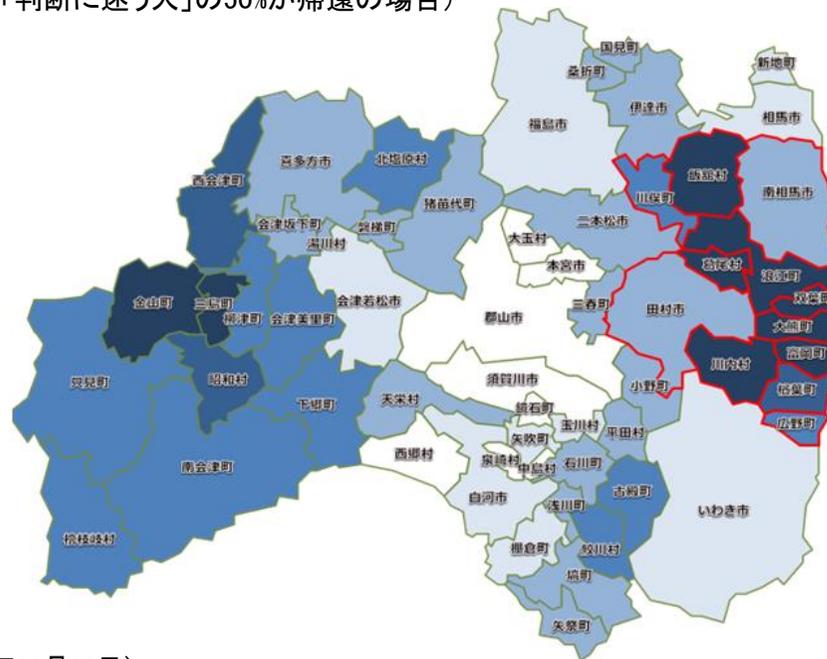
- ・2011年の東日本大震災・原子力災害の発生により、県内に約6万人、県外に約4万人以上の県民が今なお避難している状況が続いている。
- ・下記<注記>により震災の影響を踏まえた市町村別推計(居住人口の推計)を行った結果、『「戻る意志がある人」の100%、「判断に迷う人」の50%が帰還する』仮定の場合、2040年には会津、南会津方部に加え、避難指示区域においても40%以上の人口減少が多く見られ、23町村において40%以上の人口が減少すると予測される。(図1)
- ・今後、地方創生やイノベーション・コースト構想などによる働く場づくりによって、震災・原子力災害からの早期回復を図っていく。

<注記> 避難者の帰還について

- ・「平成26年度原子力被災自治体における住民意向調査結果」(復興庁実施)等を参考。
- ・帰還率は意向調査の結果を元に、『「戻る意志がある人」の100%、「判断に迷う人」の50%が帰還する』、『「戻らないと決めている人」以外が帰還する』パターンの2通りで推計。
- ・避難者の帰還は、2020年までに達成されるものと仮定。

図1: 2010年→2040年の居住人口減少率(「戻る意志のある人」の100%、「判断に迷う人」の50%が帰還の場合)

	減少率	市町村数
	20%未満	8
	20~30%未満	9
	30~40%未満	19
	40~50%未満	11
	50~60%未満	3
	60%以上	9



- ※ 当該推計は、住民意向調査結果等による福島県の独自推計であり、人口減少対策による人口増を考慮しない単純推計である。
なお、住民の帰還状況により、今後変動するものである。
- ※ 赤線枠の市町村は避難指示が出された区域
(平成27年11月時点は解除されている区域も含む)

資料出典: 第6回 福島県地域創生・人口減少対策有識者会議資料より (平成27年11月18日)

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 ―コミュニティ維持活動の取り組み(双葉町)

●双葉町のコミュニティ維持活動の取り組み

- ・双葉町は、コミュニティの維持活動として広報誌の発行やホームページによる情報提供を行うとともに、タブレット端末を利用した町民同士の交流活動支援を行っている。また、福島県内9箇所の避難地で「きずなの維持・発展」をテーマとしたワークショップ(座談会)などを開催し、町民の絆を繋ぐ活動をしている。

●町広報紙の発行、ホームページの活用

- ・避難先に新たに作られた町民の自治会などによるコミュニティ活動の支援、町広報紙、ホームページなどを活用したきめ細かな情報提供を実施するとともに、きずなの維持のための施策を充実していく。

●タブレット端末を利用した「きずなの維持」

- ・ICTきずな支援システム事業として、タブレット端末機器を平成27年9月末現在1,886台を配布し、タブレットを活用した町民同士の交流活動等への支援策と町との双方向での情報提供の充実を図っている。
- ・合同配布会を開催して操作方法の説明及び希望に応じ戸別訪問や配送も実施すると共に、タブレット個別相談会やコールセンターを設置し、利用者のサポートを行っている。

●町民参加の復興まちづくり計画の策定

- ・福島県内外9カ所において「町民のきずなの維持・発展」をテーマに、町民のワークショップ(座談会)を開催(平成25年11月～12月)多くの町民の意見・提案を反映できる取組を実施。

●町の取り組みに対する町民の声

- ・町民の方の顔写真が見れて懐かしく、毎日楽しみにしている。
- ・タブレット端末を利用し双葉町の友人同士でLINEの無料通話やビデオ電話が使えるようになった。また、遠方にいる孫とLINEがつながった。
- ・地図アプリを利用して旅行計画をたてた。
- ・(双葉町内の写真投稿に対して)双葉に数年行っていないので、いつも見ている。ありがとうございます。
- ・タブレットでお互いに情報交換できるようになったが、自治会や婦人学級用に使えるようにしてもらえないか。
- ・イベント類がつくばや加須ばかりで行われているが、(今住んでいる場所は)双葉町から忘れられている気持ちになる。
- ・自治会や婦人学級のフォルダーができたことは良いが、他のひとにも見られてしまう。
- ・タブレット操作の相談会が祝日で休みになるが、毎月楽しみにしているのので日をずらしても開催してほしい。
- ・タブレットで議会中継をみているが、一方向のツールである。できれば意見を直接交換する正式な会合が望まれる。

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 —コミュニティ維持活動の取り組み(浪江町)

●浪江町のコミュニティ維持活動の取り組み

- ・浪江町は、コミュニティの維持活動として復興支援員を1府9県に約30名配置し、訪問活動などによる支援を行うとともに、交流館の開設、さらには、交流会の開催など行っている。また、タブレット端末を利用したオリジナルアプリ(なみえ新聞)、さらには、「浪江のこころ通信」などを通して町民の絆を繋ぐ活動をしている。

●復興支援員の配置、交流会の開催、交流館の設置

- ・1府9県に約30名の復興支援員を配置し、全国に避難している町民への訪問活動など、一人ひとりに寄り添う支援を行っている。
- ・県内3か所に交流館を開設、さらに県内外で交流会を開催している。

●タブレット端末を利用した「きずなの維持」

- ・これまでに約6,500台を配布した。
- ・町民の声を聞いて開発したオリジナルアプリ(なみえ新聞など)で、高い利用率を実現している。
- ・活用促進と交流を兼ねて、県内外で講習会を多数開催している。

●「浪江のこころ通信」(町民へのインタビュー連載)

- ・福島県内外に分散避難した町民の思いをつなげる「浪江のこころ通信」は、「広報なみえ」に綴じこみ、これまで延べ約300人(家族)が登場している。

●町の取り組みに対する町民の声

タブレット端末の利用について

- ・「仮設住宅に住んでいるが今まで周囲の人たちとの交流がなかった。タブレットが配られてから近所の人たちに教えるようになった。生き甲斐をありがとう」
- ・「震災後はじめて親友の顔を見ることができた」
- ・「アプリも使いやすく、インターネットもできるので、つい使いすぎてしまう。いいタブレットをありがとう」

「浪江のこころ通信」について

- ・平成23年7月に広報誌の発行を再開し、その際にこころ通信をスタート、当時は、「知人の安否を確認できてうれしい」という町民の声があった。最近では町に戻る、戻らないなどの問題もあり、「他の人も同じように悩んでいるのがわかった」また、「今後の判断の参考になる」といった声があり、思いを共有する場になっている。

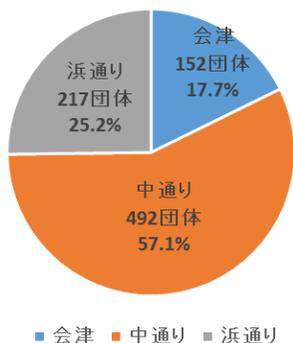
2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — NPO団体の活動状況

● 浜通り地域及び双葉・浪江両町における活動状況

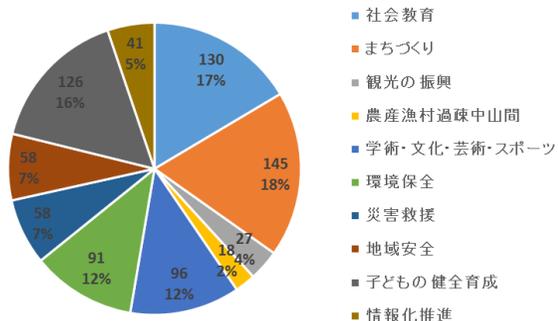
・福島県の承認NPO団体は861団体であり、公園敷地周辺の浜通り地方では217団体が承認されている。浜通り地方の団体の活動内容は、まちづくり系が最も多く18%であり、以下社会教育17%、観光振興16%、環境保全及び学術・文化・芸術・スポーツが各12%となっている。

・双葉・浪江両町での承認NPO団体は、社会教育及びスポーツ1団体、まちづくり1団体、保険・医療福祉1団体の3団体であるが、避難先での避難者支援活動などが中心となっている。

地域別NPO法人認証件数の割合



NPO法人活動概要



※分野別内訳に計上した数は、各NPO法人の定款に記載された活動分野を集計したものである。

資料出典：福島県ホームページ「福島県所管NPO法人」より引用

団体・法人の概要	活動概要
<p>名称：NPO法人双葉ふれあいクラブ 市町村：双葉町 組織形態：特定非営利法人 設立年：平成12年</p>	<p>子育て支援・まち(村)づくり、住民交流・スポーツ健康づくり。震災後も避難住民に対する支援活動を継続。</p>
<p>名称：まちづくりNPO新町なみえ 市町村：浪江町 組織形態：特定非営利法人 設立年：平成8年</p>	<p>まちづくり活動を主に街中活性化と住みやすい地域づくりを目標に活動。震災後は二本松の浪江町の行政と連携し避難住民に対する支援活動を継続中。</p>
<p>名称：NPO法人「JIN」 市町村：浪江町 組織形態：特定非営利法人 設立年：平成16年</p>	<p>保健・医療又は福祉の増進を図る活動・社会教育や町づくりの推進・人権擁護又は平和の推進を図る活動・子供の健全な育成活動。</p>

資料出典：各法人のホームページより引用

2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — 産業構成(双葉町)

●震災前の産業構成

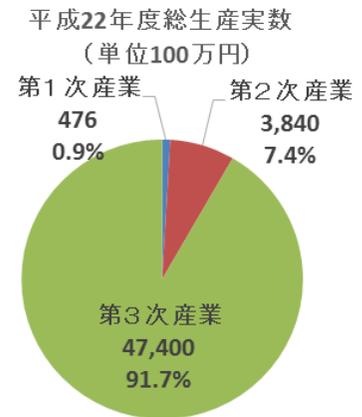
- ・双葉町の震災前の産業構成は、第三次産業91.7%、第二次産業7.4%、第一次産業0.9%の構成であった。
- ・第一産業は、農業(稲作)が主体で95.3%、次に林業4.7%の順となっていた。
- ・第二次産業は、建設業が58.2%であり、次に製造業41.8%、の順となっていた。
- ・第三次産業の上位5位では、最上位が電気・ガス・水道業81.5%、突出しており、次に政府サービス生産者6.4%、不動産5.7%、サービス業3.9%、運輸業1.2%の順となっていた。

●復興の状況

- ・町内の96%が帰還困難区域であり、町の復興に向けては厳しい環境におかれている。
- ・中野地区に「復興産業拠点」を先行して段階的な整備予定。
- ・両竹地区に再生可能エネルギー拠点の形成、植物工場等の農業再生モデル事業を構想。
- ・概ね5~10年後まで町の産業・復興拠点として発展を遂げていることを目標とし、平成30年頃には「復興産業拠点」にて本格的な企業活動が開始できるよう、基礎的インフラの整備に取り組む計画となっている。

出典：「福島県市町村経済計算年報」の22年度版より引用
 ：「双葉町における被災の現状と復興への課題」・平成27年10月より引用

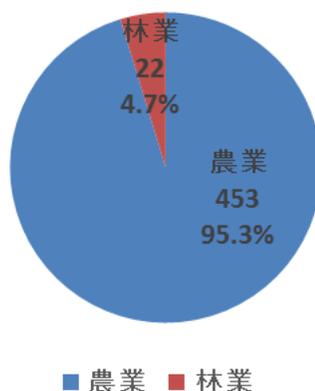
産業構成



■ 第1次産業 ■ 第2次産業 ■ 第3次産業

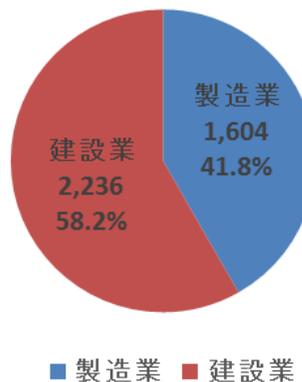
第一次産業

平成22年度第1次産業
生産数(単位100万)



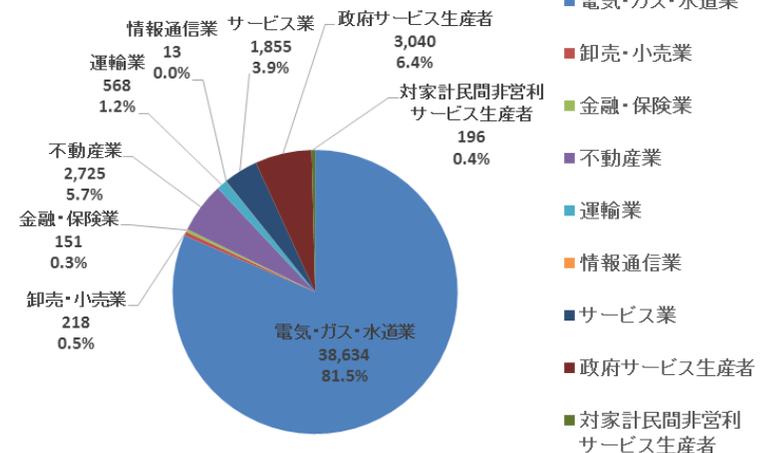
第二次産業

平成22年度第2次産業
生産数(単位100万円)



第三次産業

平成22年度3次産業
生産数(単位100万)



2. 震災後の公園候補地周辺エリアの状況 — 産業構成(浪江町)

●震災前の産業構成

- ・浪江町震災前の産業構成は、第三次産業54.3%、第二次産業41.4%、第一次産業4.3%の構成であった。
- ・第一産業は、農業(稲作)が主体で90.0%、次に水産業7.4%、林業2.6%の順となっていた。
- ・第二次産業は、製造業が81.7%であり、次に建設業18.1%、鉱業0.1%の順となっていた。
- ・第三次産業の上位5位では、最上位がサービス生産者28.5%、不動産業27.1%、サービス業20.4%、電気・ガス・水道業7.7%、卸売・小売業4.1%の順となっていた。

●復興の状況

農業の現状

- ・水稲:平成26年より実証栽培を開始、全量全袋検査ですべて基準値以下。
- ・野菜:平成25年より試験栽培を開始、全14品目で安全を確認した。
- ・花卉:平成26年より実証栽培を開始、これまでトルコギキョウやリンドウを市場出荷した。

漁業現状

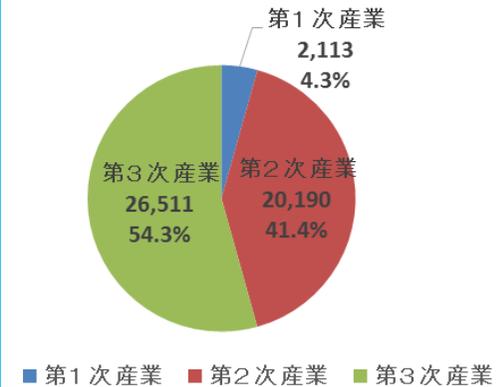
- ・請戸漁港の復旧は、平成28年3月までの完了を予定、相馬双葉漁協は、魚種・漁場を限定した試験操業中。

第二・三次産業

- ・平成27年8月現在、18事業者(22事業所)が町内で営業中、事業者の営業再開率は35%となっている。(商工会加盟の事業所、町外での再開を含む)

産業構成

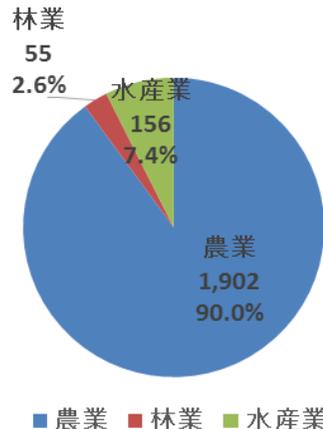
平成22年度総生産実数
(単位100万円)



出典:「福島県市町村経済計算年報」の22年度版より引用
:「浪江復興レポート」平成27年10月より引用

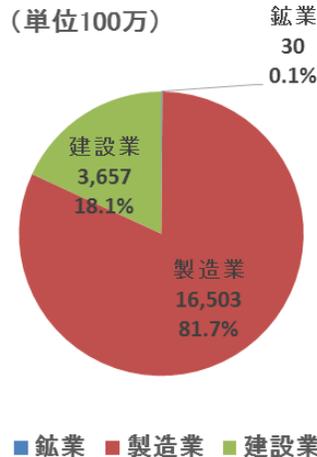
第一次産業

平成22年度第1次産業
生産数 (単位100万)



第二次産業

平成22年度第2次産業
生産数 (単位100万)



第三次産業

平成22年第3次産業
生産数 (単位100万)

